
第5回 富山駅周辺整備事業推進協議会

富山駅高架下空間の利活用に関する検討

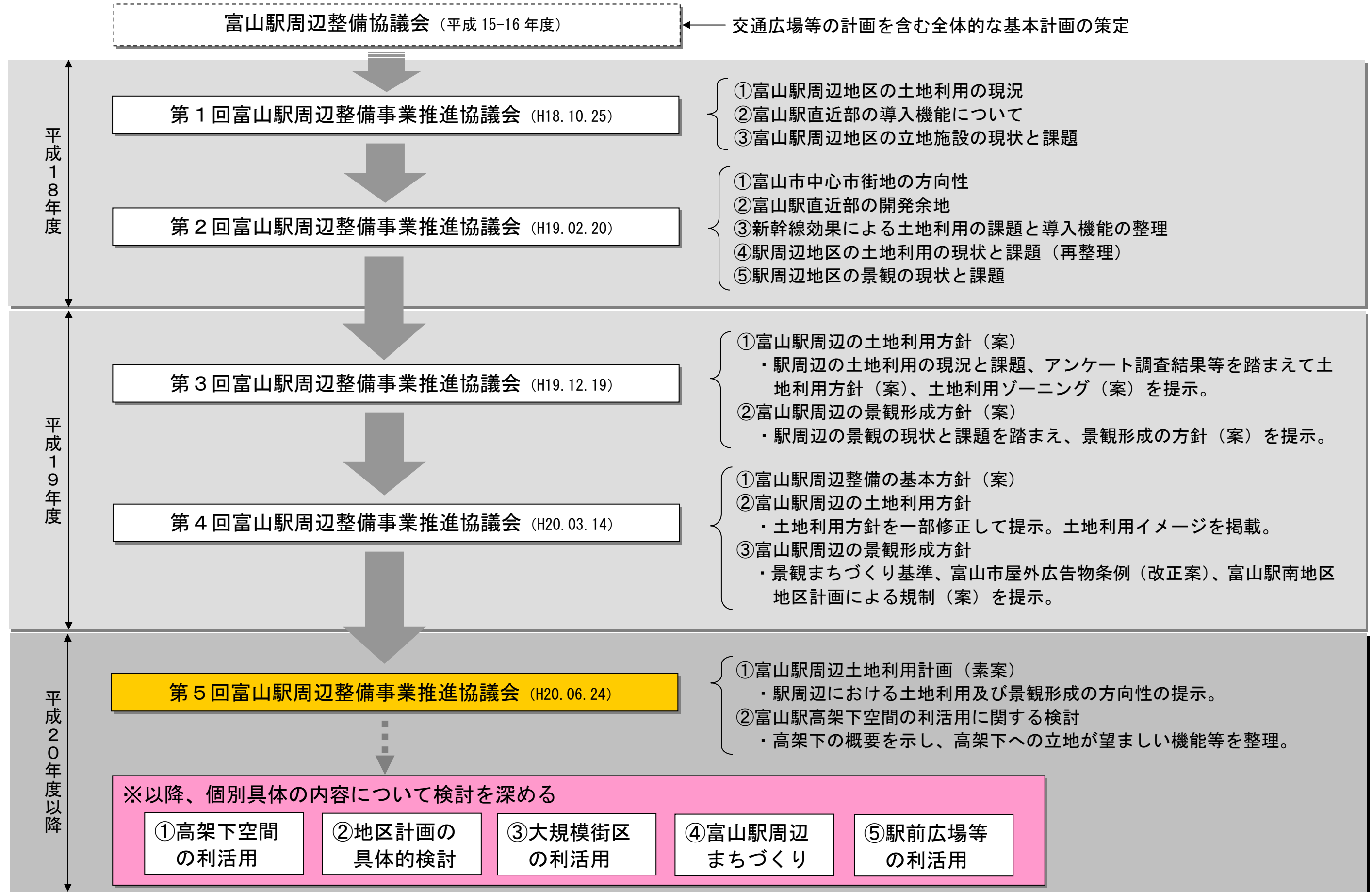
目 次

1. 土地利用・景観形成に関するこれまでの検討の流れ	1
2. 本協議会における検討事項の整理	2
3. 高架下に関する検討スケジュール（案）	3
4. 富山駅高架下の概要	4
5. 高架下空間の利活用方針の検討	7

平成20年6月24日

富 山 市

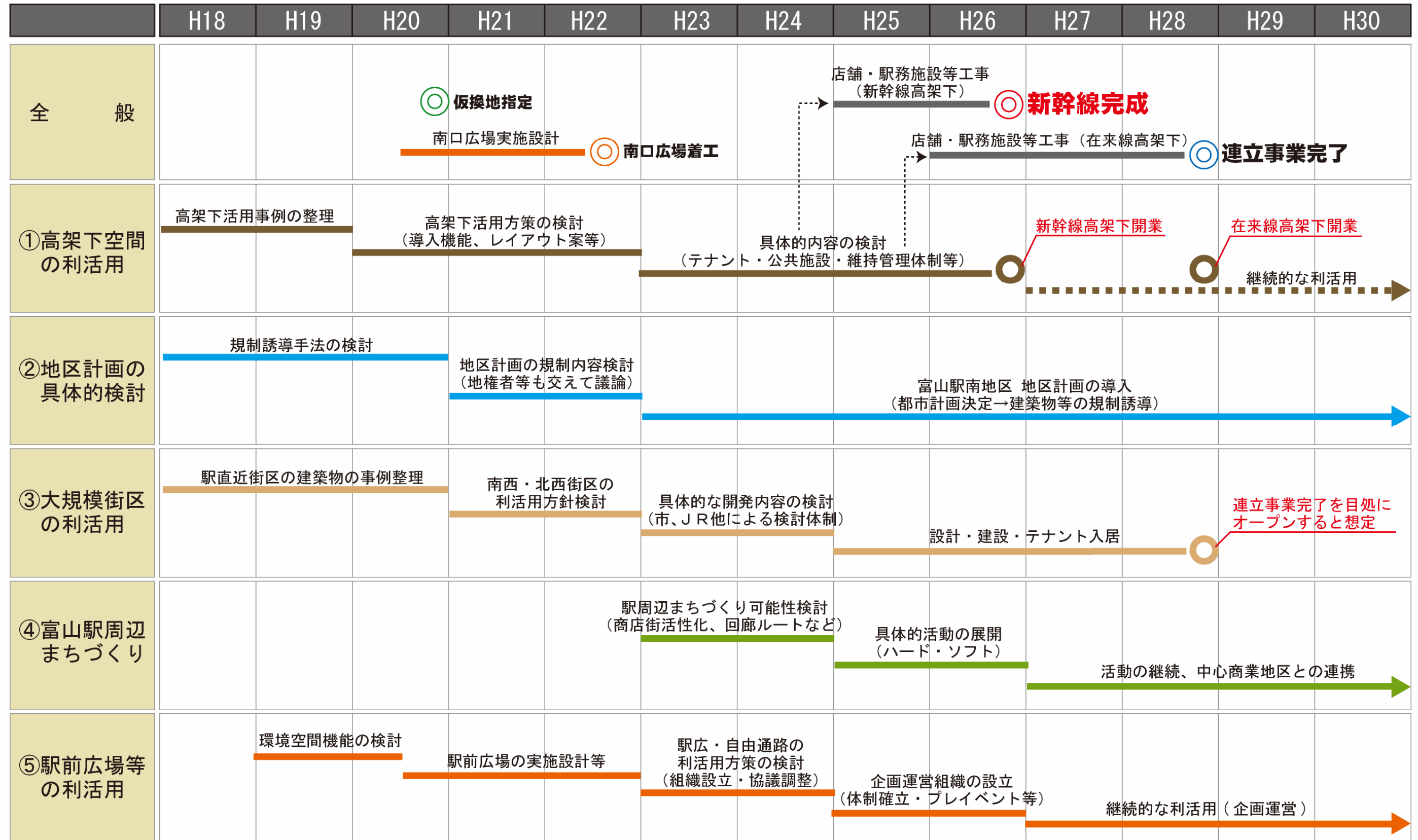
1. 土地利用・景観形成に関するこれまでの検討の流れ



2. 本協議会における検討事項の整理

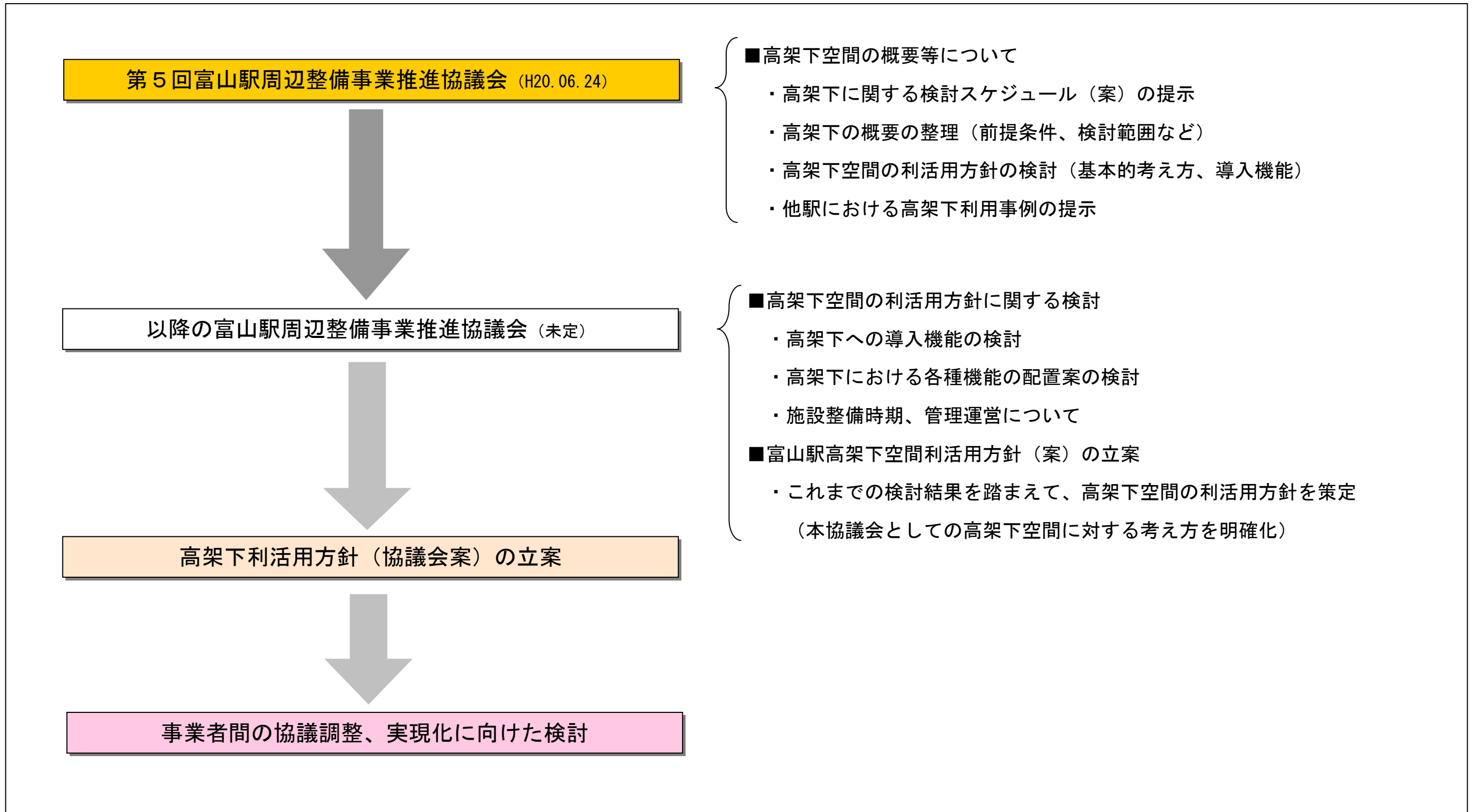
- ◆今年度以降、富山駅周辺土地利用計画に基づき、個別具体的方針について検討する。
- ◆平成20年度は、「高架下空間の利活用」をテーマとし、検討を進める。

■ 今後の検討スケジュール（案） ■



3. 高架下に関する検討スケジュール（案）

- ◆ 今後、高架下導入機能のさらなる検討、各種機能の配置案、施設整備時期や管理運営体制に関する検討を行い、「富山駅高架下空間利活用方針（案）」を立案。
- ◆ 本協議会での検討結果は、今後、事業者間で行われる具体的な協議調整の場に提示し、実現化に向けて検討していく予定。



4. 富山駅高架下の概要

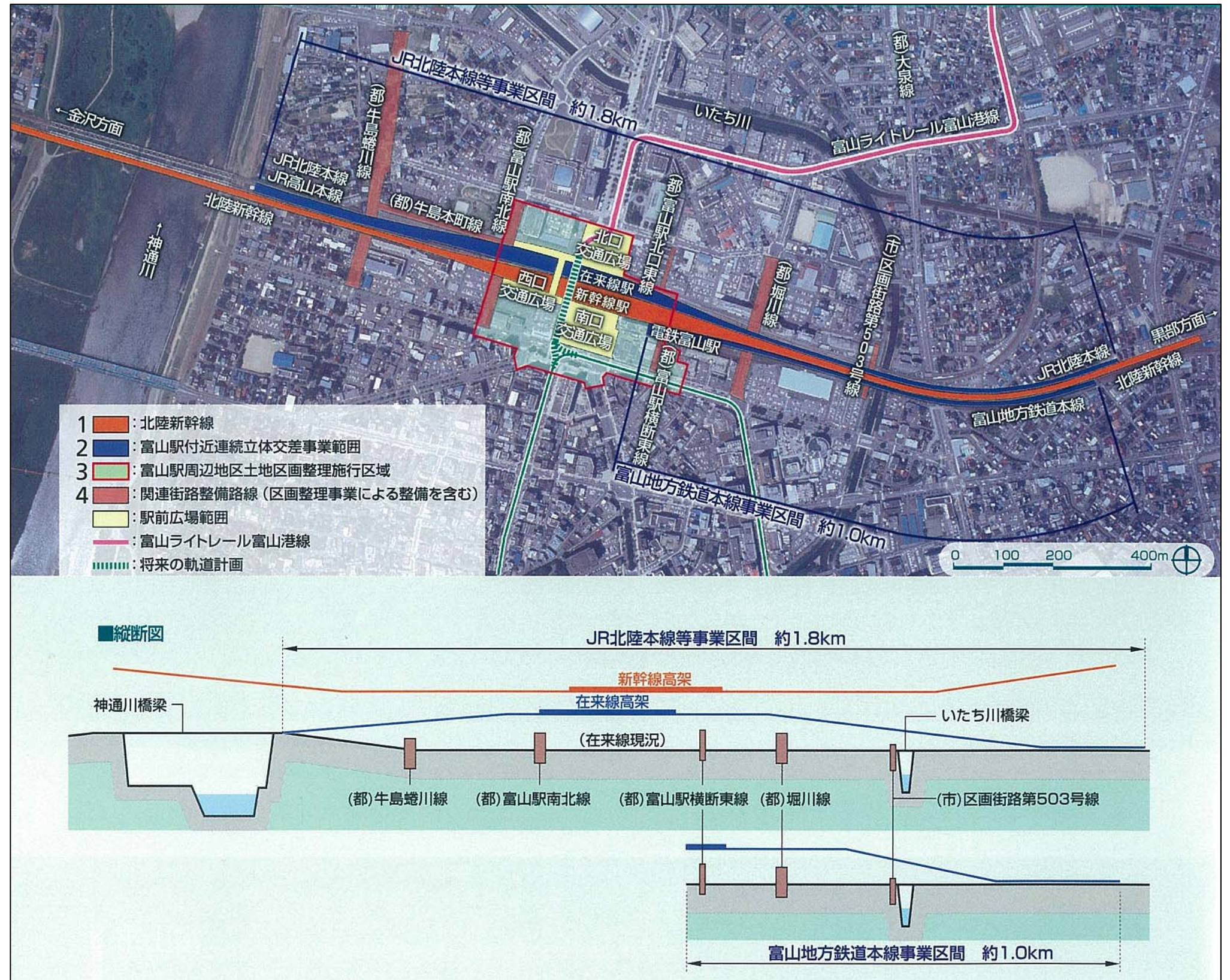
(1) 検討にあたっての条件

- ◆新幹線高架下は、JR西日本が主体的に利活用を行うものと想定される。
- ◆一方、在来線は、鉄道事業者（第3セクター等）が主体的に利活用を行うことが予想される。



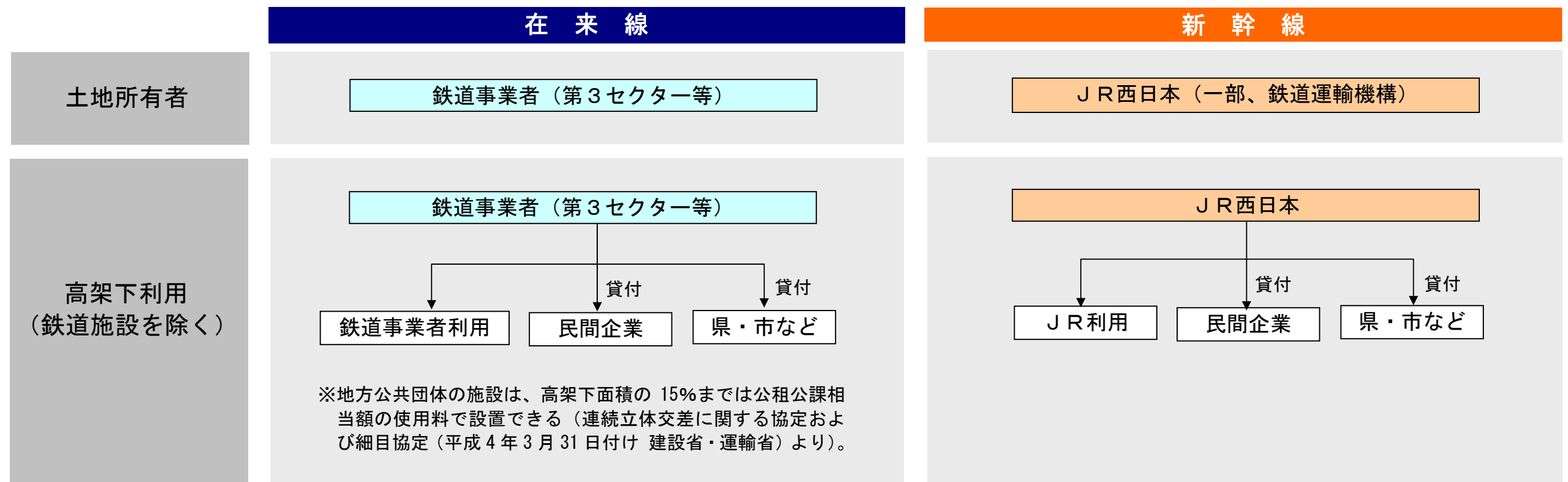
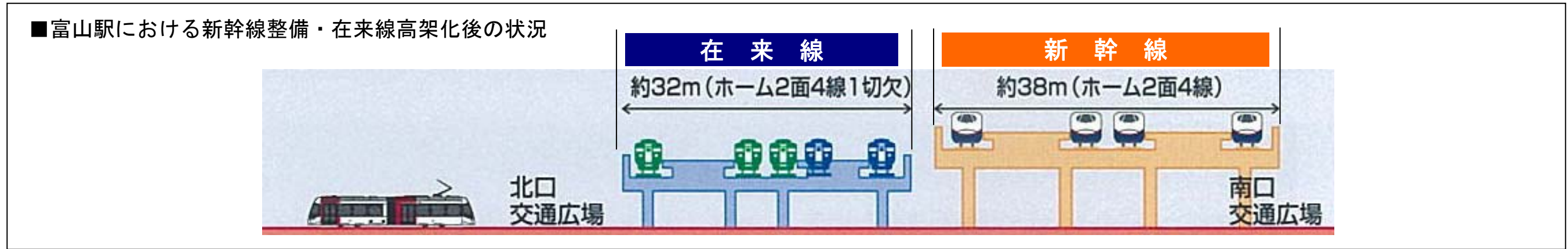
- ◆本協議会では、権利関係にとらわれず、県都の玄関口として、高架下空間のあるべき方向性について新幹線・在来線を一体的に検討することを目的とする。

※本協議会での検討結果は、今後、事業者間で行われる具体的な協議調整の場に提示し、実現化に向けて検討していく予定。



出典：富山市パンフレット「富山駅周辺整備事業の概要」より

【参考】新幹線と在来線の高架下利用等の整理

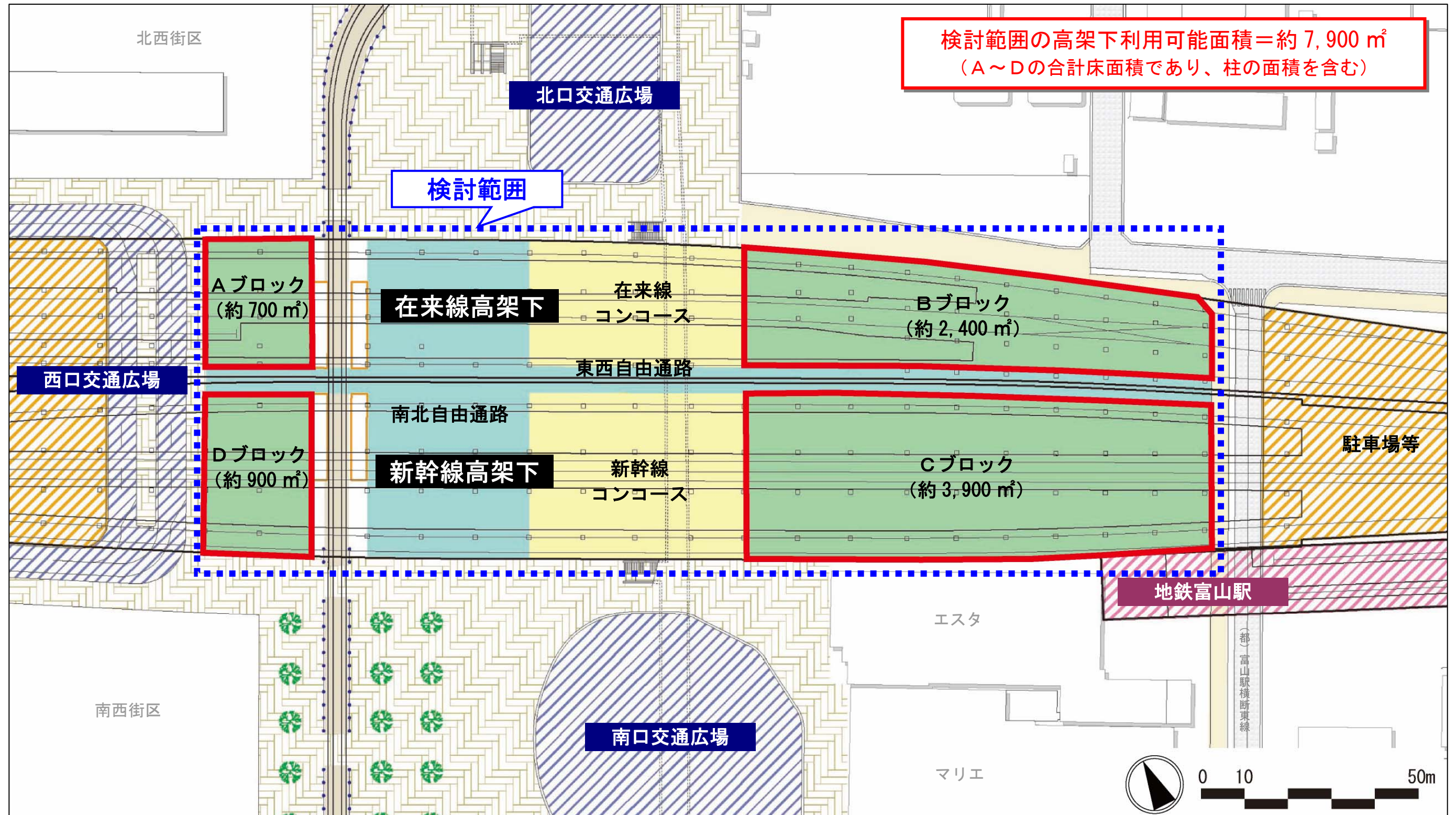


◇ 並行在来線は、新幹線開業後、JRから経営分離（第3セクター等に移行予定）。

(2) 検討の範囲

◆富山駅周辺土地利用基本方針において「賑わい拠点ゾーン」に位置づけられており、新幹線と在来線のコンコースの直近に位置する下図A～Dの4つのブロックを含む範囲を、本協議会での検討範囲とする。

■ 富山駅高架下平面図 ■



5. 高架下空間の利活用方針の検討

(1) 検討に際しての基本的考え方

◆土地利用方針では「賑わい拠点ゾーン」と位置づけており、既存の商業施設や駅直近の大規模街区との関係に配慮しつつ、賑わいの連続性を確保するよう努める必要がある。

◎最低限、既存の駅舎にあるものは必要。

- ・民間機能：飲食店、土産店、書店、薬局、宅配便、コンビニなど
- ・公的機能：観光案内・観光物産、PORTRAMショップ、交番など

◎既存+αの機能を導入し、魅力向上ならびに賑わいの連続性確保に努める。

J R 富山駅の主な既存施設の状況

[民間機能]

◇とやま駅特選館（富山ステーションデパート）を中心に、既存の駅構内には、飲食店、土産店、書店、薬局、宅配便、コンビニなどの民間施設が立地。



◇JR駅～地鉄の間
コンビニや飲食店が並ぶ
(エスタ・マリエにつながる)



◇JR駅構内（1階）
飲食店や食料品店、キヨスク、
薬局、旅行代理店等が並ぶ



◇JR駅構内（2階）
銘菓や海産物等の土産店の
他、書店やクリーニング店が立地



◇JR駅構内（3階）
レストランフロアとして飲
食店が並ぶ

[公的機能]

- ◇市の観光案内施設は改札前と南口広場に設置されている。
- ◇待合室は改札口付近のラッチ外に設置。そば屋と併設し、収容人数は20人程度と小規模。
- ◇駅北にはPORTRAMショップが立地。passca（パスカ）の自販機もあり。
- ◇交番は、JR富山駅と地鉄富山駅の間に位置している。



◇富山市観光案内所
駅南口広場（屋外）に立地
(受付で女性に対応)



◇富山市観光コーナー
改札口正面に設置
(画像とパンフレットのみ)



◇PORTRAMショップ
駅北口改札前に設置
写真右は物産展示ブース



◇待合室
改札口付近のラッチ外に設置
そば屋と併設、20人程度収容

★とやま駅特選館（富山ステーションデパート）の規模
延べ床面積：5,630㎡（店舗面積：1,246㎡）

(資料：全国大型小売店総覧 2008 より)

★既存の観光案内施設や待合室等の面積を入れても、検討範囲の高架下利用可能エリア（約7,900㎡）に収まる規模

※ただし、JR金沢駅（延べ床面積：約17,000㎡、1層構造）やJR岐阜駅（延べ床面積：約61,000㎡、3層構造）に比べると規模は小さい。

※なお、上記各駅の乗車人員（平成18年度の1日平均）は、富山駅：約17,000人に対し、金沢駅：約21,000人、岐阜駅：約29,000人とやや多い。

高架下空間を有効活用し、既存の機能を備えつつ+αの機能を整備して魅力を高める必要あり
(既存施設のグレードアップも視野に検討)

どのような機能を導入すべきか？
(高架下への導入機能を検討)

(2) 高架下への導入機能の検討 (案)

1) 高架下に欠かせない機能

◆高架下に欠かせない機能として、①観光案内、②商業 (土産店)、③待合室、④交番が挙げられる。

①観光案内

- ◇既存の市観光案内所や市観光コーナーの機能を高架下に設ける。
- ◇新幹線で来た観光客がわかりやすいよう改札口付近への配置を検討。
- ◇公共交通案内や宿泊案内の機能を併設。
- ◇「いきいきKAN」などの観光関連施設との連携に配慮。



熊本駅の総合観光案内所
・改札口のすぐ横にあり、交通、宿泊、レンタカー、レンタサイクル等の総合案内に対応。



鹿児島中央駅の総合観光案内所
・熊本駅同様、改札口直近にあり、交通、宿泊、レンタカー、レンタサイクル等の総合案内に対応。



長崎駅の総合観光案内所
・他駅の施設と同様、改札口直近にあり、交通や宿泊等の総合案内に対応。カフェや待合室と併設。

②待合室

- ◇既存の待合室を拡充し、新幹線開業後の需要増に備える。
- ◇そば屋やカフェ等の飲食店との併設も視野に入れた検討が必要。
- ◇大型ビジョンや無線LANコーナーを併設し、冷暖房が入った室内で待ち時間を快適に過ごせる空間を確保。



博多駅の待合室 (ラッチ内)
・立ち食いそば屋と併設。
・無線LANコーナーを設置。



岡山駅の待合室 (ラッチ内)
・カフェと併設。
・無線LANコーナーを設置。
・大型ビジョンや雑誌を設置。



長崎駅の待合室 (ラッチ外)
・カフェ及び総合観光案内所と併設。
・大型ビジョンを設置。
・室内からホームの列車を眺めながら待ち時間を過ごせる。

③商業 (土産店)

- ◇既存の「とやま駅特選館」の2階にあるような土産店を配置。
(ます寿し、銘菓、鮮魚、地酒、工芸品など)



とやま駅特選館2階の土産店



金沢駅高架下の土産店



福井駅高架下の土産店

④交番

- ◇駅周辺の治安維持のため、既存の「富山駅前交番」を高架下に配置。



JR富山駅と地鐵駅の間に位置する既存の富山駅前交番



鹿児島中央駅の地下通路に位置する鹿児島中央駅前交番



小田急和泉多摩川駅前高架下に位置する和泉多摩川交番

2) 高架下への立地が望ましい機能

◆高架下への立地が望ましい機能として、①観光情報、②観光物産、③商業（飲食店）、④クイックコンビニエンスが挙げられる。

①観光情報

◇富山市内だけではなく、県都の玄関口として、富山県全体の観光情報を入手できる機能。
→現在は「いきいきKAN」(CIC5階)にあり→機能移転を検討



いきいきKAN内の一角。県内全体の地図があり、映像でも観光資源の紹介が行われている。



いきいきKAN内の観光情報コーナー。県内市町村のパンフレットが豊富に並び、詳しい情報を入手できる。

③商業（飲食店）

◇既存の「とやま駅特選館」にあるレストランや居酒屋等の飲食店。
◇富山の“きときと”な食材を味わえる鮮魚食堂、ます寿し店など。
◇気軽に入れるカフェ、ファーストフード店。
例) 高架下のA及びDブロックでは、LRTを眺めながら飲食を楽しむ空間を整備。



金沢駅高架下「ぐるめ小路」
・金沢百番街の「おみやげ館」に位置する飲食店街。



福井駅高架下の飲食店街
・「プリズム福井」内に整備された飲食店街。「越前そば」などの地域を代表する食が味わえる。



長崎駅待合室内のカフェ
・ホーム脇に設けられており、出入りする列車や人を眺めながら珈琲を楽しむ。富山でもLRTを眺めながらくつろげる空間が必要。

②観光物産

◇富山市内だけではなく、富山県全体の観光物産を取り扱う店舗や、各種物産の紹介コーナー、ます寿し作り体験コーナーなどの機能。
→現在は「いきいきKAN」(CIC5階)にあり→機能移転を検討



いきいきKAN内のます寿し作り等の体験コーナー。高架下に導入すれば、電車を待つ間にも利用可能。



いきいきKAN内にある薬ミュージアム。薬膳カフェが楽しめる空間を高架下にも配置。

④クイックコンビニエンス

◇気軽に多くのものが手に入るコンビニエンスストア（キヨスク）。
◇ATM（銀行、郵便局など）、ドラッグストアなど。



金沢駅高架下のコンビニ
・現在の富山駅にあるものと同じハートインだが、金沢駅の店舗は書籍や土産物も扱っており、規模が大きい。



金沢駅高架下のATM
・金沢百番街「ふれあい館」の奥には、郵便局に並列してATMコーナーを設置。



福井駅高架下のドラッグストア
・「プリズム福井」内に整備されたドラッグストア（マツモトキヨシ）。金沢駅西口に新たに整備された金沢百番街「くつろぎ館」の中にも立地している。

3) 高架下に考えられる富山らしい機能

◆「きときと」「LRT」「ガラス」をキーワードとする機能を配置し、富山らしさを演出。富山の新たな名所として高架下を活用。

「きときと」

- 富山の「きときと」(新鮮)な食材を味わえるフード・テーマパーク
(海の幸、富山ブランドの食など)

※「きときと」な海の幸

ブリ(寒ブリ) / シロエビ / ホタルイカ / ベニズワイガニ...等



※富山ブランドの食

ますの寿司 / 五箇山豆腐 / 越中料理 / 氷見うどん / 昆布 / とやまポーク / 呉羽なし / 加積リンゴ...等



事例 「浜松べんがら横丁」(遠州鉄道新浜松駅高架下)

- ・ 2006年3月、遠州鉄道新浜松駅高架下にオープン。
- ・ 中心市街地活性化を目指す浜松市(静岡県)が「都心ゲートパーク整備事業」の一環として、コンペ方式で事業者を決定。
- ・ にぎわい空間の創出を目指した「食のコミュニティパーク」として整備し、全国から13店舗が出店。昼も夜も楽しめる。



「LRT」

- 今や富山の代名詞。全国・世界のLRTが集うステーションミュージアム
(ミニチュア車両、パネル展示など)

※国内のLRT車両導入都市

高岡(万葉線) / 岡山(岡山電気軌道) / 広島(広島電鉄) / 松山(伊予鉄道) / 鹿児島(市交通局) / 熊本(市交通局)...等



※海外のLRT車両導入都市

ストラスブール(フランス) / フランクフルト(ドイツ) / アントワープ(ベルギー) / ロンドン(イギリス) / ロサンゼルス(アメリカ)...等



事例 「(旧)交通博物館」(JR東日本中央線高架下)

- ・ 1921年に東京駅高架下に開館。関東大震災後、1936年に旧万世橋駅舎跡地に移転。一部、中央線高架下を利用。
- ・ 車両の一部やパノラマ模型、運転シミュレータなどを展示し、多くの鉄道ファンに親しまれてきたが、2006年に閉館。
- ・ 2007年に「鉄道博物館」として、さいたま市に新装開館。



「ガラス」

- 「ガラスの街とやま」の新たな拠点となるステーションギャラリー
(作品展示・紹介、作品販売など)

※「ガラスの街とやま」のPR

駅を新たな拠点として、富山市の新たな文化・産業であるガラス工芸を広くアピール



※既存施設との連携による回遊性向上

富山国際会議場のアートサロンや城址大通り等のミニケースギャラリーと連携し、中心市街地の回遊性を向上



事例 「金沢ステーションギャラリー」(JR金沢駅高架下)

- ・ JR金沢駅の在来線高架下に設置(石川県、金沢市が主体)。
- ・ 約420㎡のフロア内で、県内の工芸品などを中心に展示。
- ・ 金沢市では、駅〜中心部までの都心軸を「アートアベニュー」と位置づけ、パブリックアートを展示。まちなかには「金沢21世紀美術館」があり、駅〜中心部がアートでつながっている。



【参考】他駅における高架下利用の事例

- ◆他駅では、飲食店や土産物店などの商業施設を中心に、観光案内・行政サービスなど多様な用途に活用されている。
- ◆金沢駅では、JR所有の高架下の一部を県・市が借り上げ、公共施設を設置（観光情報センター、市民サービス窓口、子育て支援施設等）。

■JR金沢駅高架下の事例～ブロックごとにコンセプトを設定～

高架下面積：約 17,000 m²
 (下図の4つのエリアの延べ床面積合計であり、柱の面積を含む)
 ※富山駅高架下の2倍以上

■おみやげ館など (延べ床面積：約 3,500 m²)

- ・土産店、飲食店街、宅急便、トイレ等



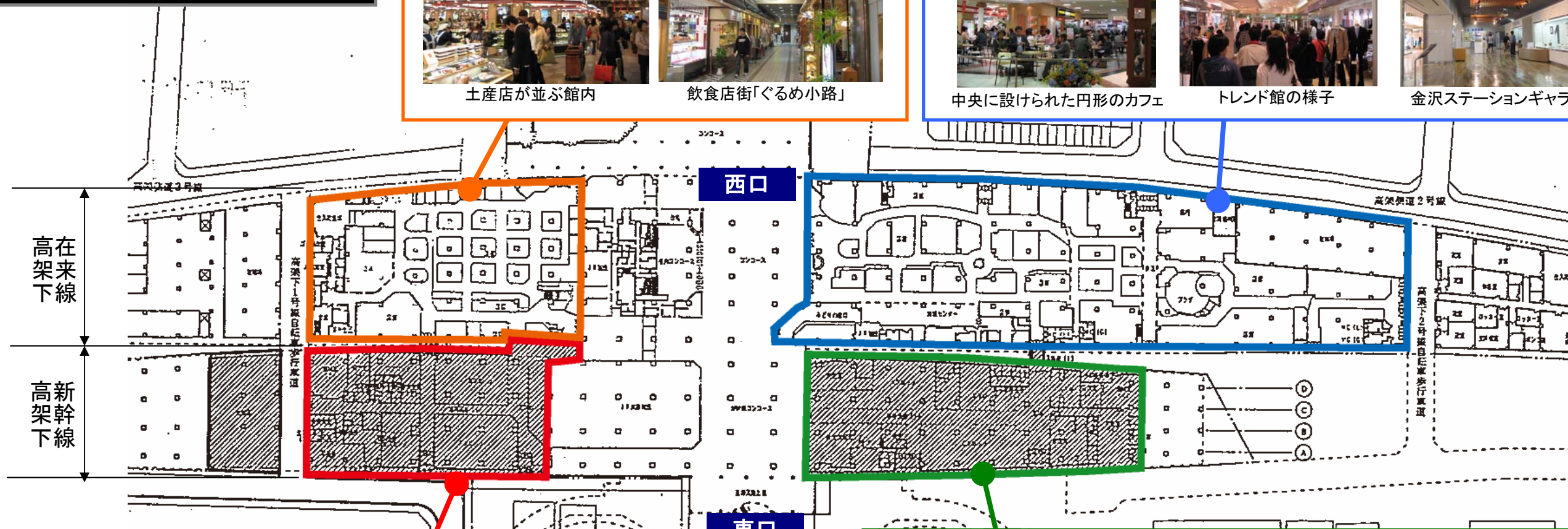
土産店が並ぶ館内 飲食店街「ぐるめ小路」

■トレンド館など (延べ床面積：約 8,000 m²)

- ・ファッション、雑貨店、カフェ、ステーションギャラリー、みどりの窓口、市営駐車場、トイレ等



中央に設けられた円形のカフェ トレンド館の様子 金沢ステーションギャラリー



■あじわい館など (延べ床面積：約 2,500 m²)

- ・飲食店街、市民総合サービスコーナー、こどもらんど等



あじわい館の様子 市民総合サービスコーナー こどもらんど

■ふれあい館など (延べ床面積：約 3,000 m²)

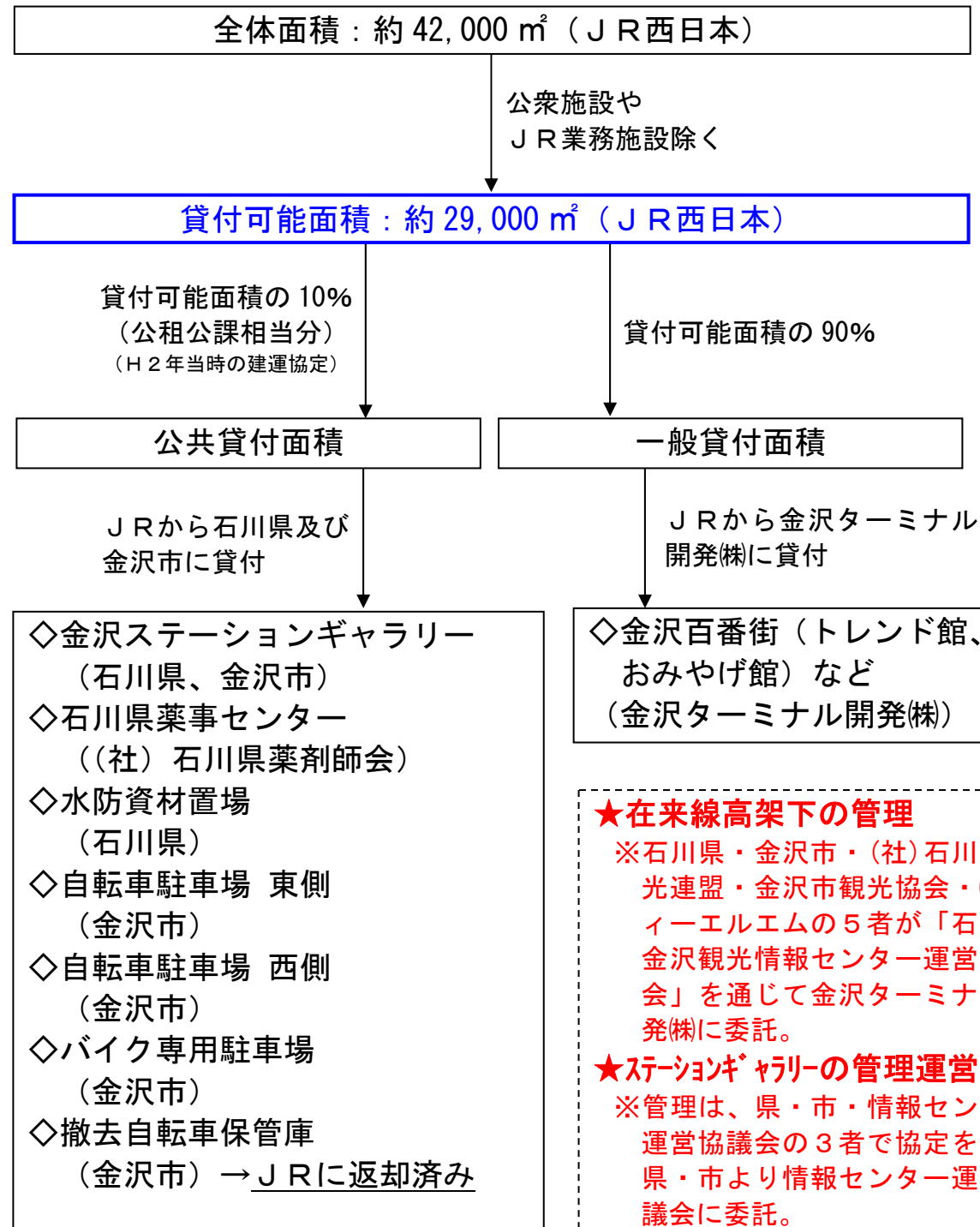
- ・観光情報センター、待合室、飲食店、土産店、クリーニング店、マッサージ店、携帯電話店、郵便局、ATM、コインロッカー、トイレ等



観光情報センター 待合室 ふれあい館の様子 土産店の様子

■ JR金沢駅高架下の管理運営体制

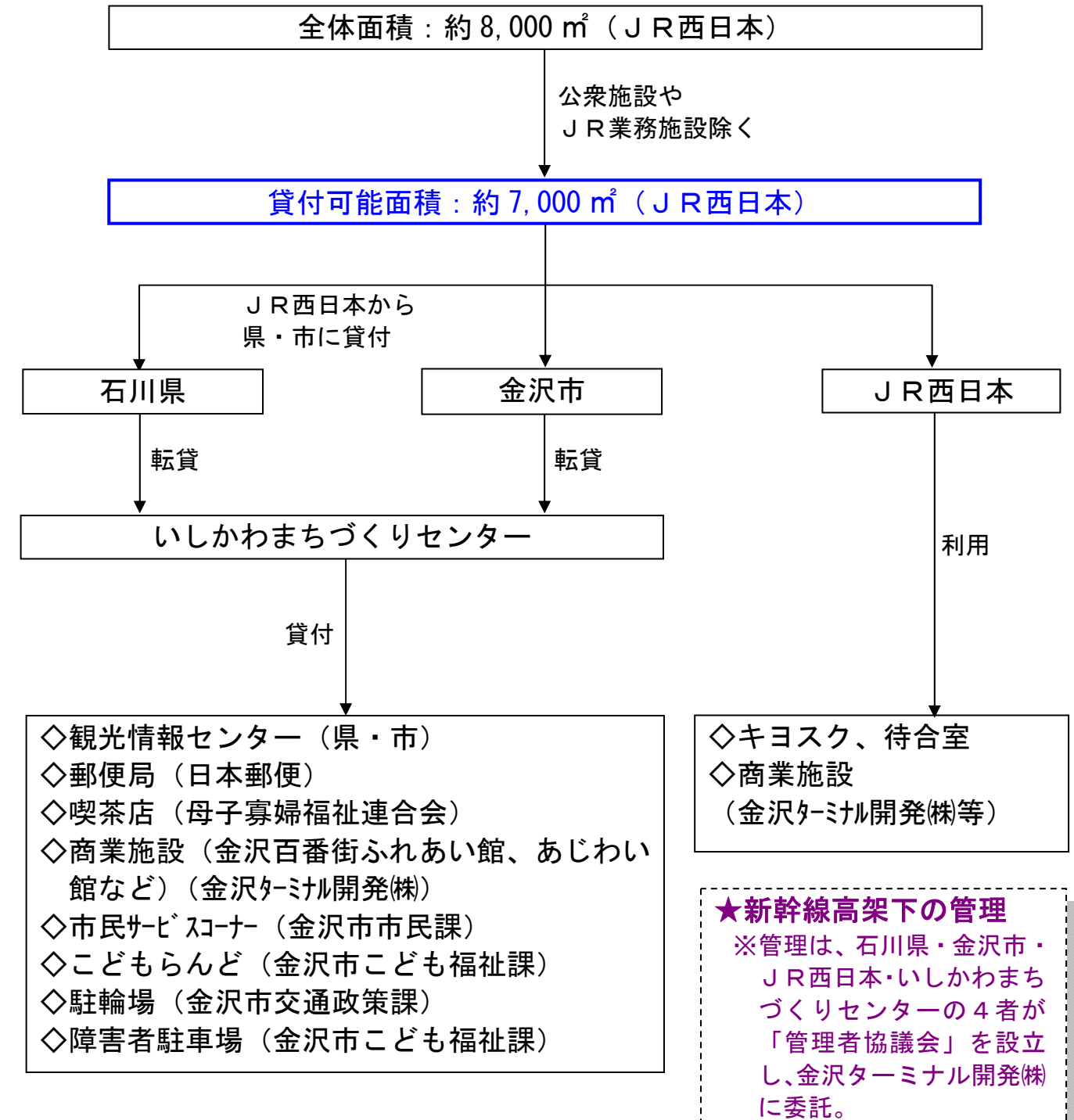
◆在来線高架下の所有関係及び管理運営体制



★在来線高架下の管理
 ※石川県・金沢市・(社)石川県観光連盟・金沢市観光協会・(株)ティーエルエムの5者が「石川県金沢観光情報センター運営協議会」を通じて金沢ターミナル開発㈱に委託。

★ステーションギャラリーの管理運営
 ※管理は、県・市・情報センター運営協議会の3者で協定を結び県・市より情報センター運営協議会に委託。
 ※運営(展示物の企画等)は、石川県及び金沢市から「石川県地場産業振興センター」に委託。

◆新幹線高架下の所有関係及び管理運営体制

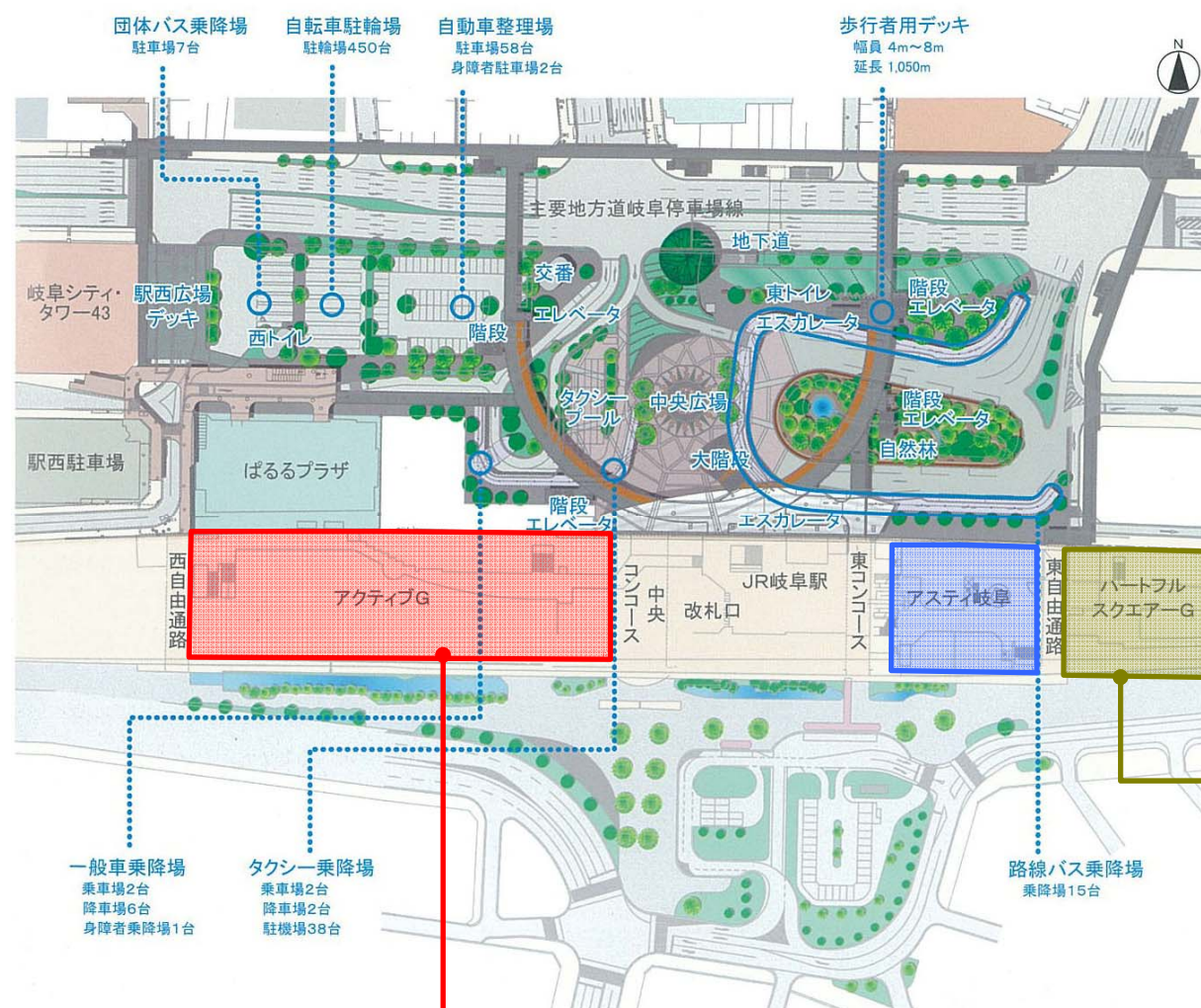


★新幹線高架下の管理
 ※管理は、石川県・金沢市・JR西日本・いしかわまちづくりセンターの4者が「管理者協議会」を設立し、金沢ターミナル開発㈱に委託。

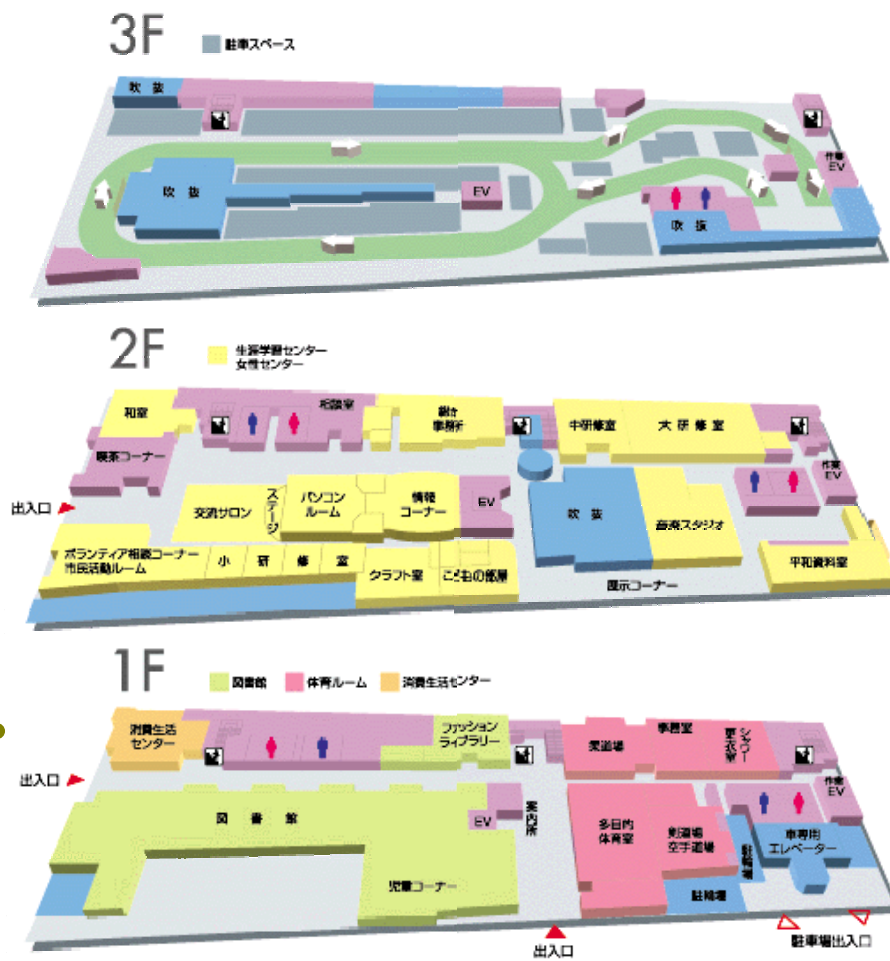
■ JR岐阜駅高架下の事例～県都岐阜市の玄関口にふさわしい多彩な機能を整備～

[JR岐阜駅高架下の特徴]

- ・ 駅区間 600m、延べ床面積 61,000 m²の広大な高架下空間を対象に、県都岐阜市の玄関口にふさわしい開発をするため、**岐阜県・岐阜市・JR東海の三者で「岐阜駅高架関連整備開発検討委員会」を設置し、協議を重ねた。**
- ・ **公設民営による高架下空間の利活用（PFI手法）**
- ・ 新たな魅力、活力、賑わいを創出するため、「おしゃれ」「健康」「楽市楽座」を基本コンセプトに導入機能を検討。
- ・ 森ビル都市企画株式会社が企画運営。現在も管理運営を担当。
- ・ 高架下主要施設：「アクティブG」（商業施設、県→森ビル）、「ハートフルスクエアG」（市の生涯学習施設）、「アスティ岐阜」（JR系の商業施設）



■ハートフルスクエアGフロアマップ(ホームページより)



■アクティブGフロアマップ(ホームページより)



アクティブG(楽市楽座2階)



飲食店街の様子(2階)



コナミスポーツクラブ岐阜



駅市場 DODA-GIFU



図書館



体育ルーム



市民活動ルーム